兼ねた。彼等は嚴然として立つて、五月一日から引續いで同盟罷業を行ふ事を決議した。その總勢約四萬人と數へられ、其後四日には更に二倍以上に增加した。

五月三日の朝約一萬の罷業職工は市俄古有數の大建築と稱せらるゝマツク、コーミツク農具製造會社の工場の前に集合した。同一場は夙に八時間勞働要求運動に反對してゐたのであつた。數番の演說は其處になされた。すると折柄工場の終業のベルが鳴り響いて多數の職工が吐出されて來た。彼等は八時間勞働要求運動に加はらない裏切者か左もなくば同類を苦しめて獨り利益を收める罷工破りであつた。斯くと見た罷工職工は翼日同音に彼等を罵つた。果ては石礫の矢が雨のやうに飛來した。其時忽ち物陰から騎馬巡査の一隊が現はれてピストルを向けつゝ迫つて來た。群集は驚いたが忽ち騷ぎは憤慨に變つた。そして兩者の間に爭ひが起り、双方共に無數の死傷者を出した。併し、之は未だ大した事ではなかつた。爭鬪は再びその翌四日を以て更に激しく行はれた。

血に彩られしメーデー

此日生憎の風雨にも拘らずヘー、マーケットの廣場に集つた勞働者の數は前日よりも遙かに殖えてゐた。何分市場の廣場の事とて演壇の設けもなく、又ロンドンのトラファルガル、スクアーのやうに演壇に代用の出來る銅像の臺もなかつたので、群集は有り合せた車を引張つて來て、臨時の演說をした。やがて夜となるや、連發銃を携へた百五十人の警官隊は現はれてアヲや勞働者を包圍しやうとした。恰度その時であつた。何處から投げられたか、一發の爆裂彈はその警官隊の中に轟然炸裂して約二十人の警官は仆された。忽ち後方に控へた警官隊は連發銃を亂射しつゝ、遮二無二勞働者の群に襲撃した。暫時の格鬪の後、丸腰の勞働者は多數の死傷者を出して退却の止むなきに立至つた。勞働者及警官の死傷は百名を超ゆた。檢擧された勞働者、新聞記者なぞ數百の多きに達した。そして、その中パーソン、スパイ